【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第２区分
【発行日】平成20年6月5日(2008.6.5)

【公表番号】特表2002-542243(P2002-542243A)
【公表日】平成14年12月10日(2002.12.10)
【出願番号】特願2000-612296(P2000-612296)
【国際特許分類】
Ｃ０７Ｄ 417/12　(2006.01)
Ａ６１Ｋ 31/4439　(2006.01)
Ａ６１Ｐ 3/10　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｃ０７Ｄ 417/12
Ａ６１Ｋ 31/4439
Ａ６１Ｐ 3/10

【誤訳訂正書】
【提出日】平成20年4月17日(2008.4.17)
【誤訳訂正１】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】特許請求の範囲
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】（ｉ）３３５８、２７６４、１２４５、８３３および７６０ｃｍ$^{-1}$にピークを含む赤外スペクトル；および
（ｉｉ）１５．０、１７．７、２３．０、３０．０および３１．４°２θにピークを含むＸ線粉末回折（ＸＲＰＤ）パターン
のうちの少なくとも１つを生じることを特徴とする、結晶化合物としての５－［４－［２－（Ｎ－メチル－Ｎ－（２－ピリジル）アミノ）エトキシ］ベンジル］チアゾリジン－２，４－ジオン，塩酸塩１水和物。
【請求項２】３３５８、３１２４、２７６４、１７６２、１７４７、１７０７、１６４４、１６１４、１５８７、１５４４、１５１１、１４１４、１３３３、１３０２、１２６８、１２４５、１１８１、１１５４、１１４２、１１０８、１０７５、１０５４、１０３３、１０１２、９８８、９３８、９０５、８５９、８３３、８１７、７６０、７３８、７１６、６６３、６５２、６３６、６２０、６０５、５６４、５４０、５２５および５０５ｃｍ$^{-1}$に赤外線のピークの位置を生じる請求項１記載の水和物。
【請求項３】８．８、１２．１、１４．１、１４．３、１５．０、１６．５、１７．７、１９．１、１９．９、２０．７、２１．３、２１．７、２３．０、２３．８、２４．３、２４．９、２５．６、２７．０、２７．６、２８．９、３０．０、３１．４、３２．２および３３．１°２シータにピークを含むＸ線粉末回折（ＸＲＰＤ）パターンを生じる請求項１または２に記載の水和物。
【請求項４】純粋な形態で単離した場合の請求項１ないし３のいずれか１項に記載の水和物。
【請求項５】他の物質と混合した場合の請求項１ないし３のいずれか１項に記載の水和物。
【請求項６】結晶形態の請求項１ないし５のいずれか１項に記載の水和物。
【請求項７】下記のいずれかの工程を行った後、所望化合物を回収することを特徴とする請求項１記載の水和物の製造方法：
（ａ）溶媒としての酢酸中で５－［４－［２－（Ｎ－メチル－Ｎ－（２－ピリジル）ア

ミノ）エトキシ］ベンジル］チアゾリジン－２，４－ジオン（化合物Ｉ）を塩酸塩イオン源で処理すること；

（ｂ）２０℃ないし３０℃の範囲の温度において適当な水性有機溶媒中の化合物（Ｉ）の懸濁液を塩酸塩イオン源で処理すること；あるいは

（ｃ）有機溶媒中の化合物（Ｉ）の溶液を塩酸塩イオン源で処理して実質的に溶解した反応物を得て、次いで、結晶化させて水和物を得る。

【請求項８】有効で無毒の量の請求項１ないし６のいずれか１項に記載の水和物およびそのための医薬上許容される担体を含む医薬組成物。

【請求項９】糖尿病、糖尿病関連症状、ならびに腎疾患、糖尿病性ネフロパシー、糸球体腎炎、糸球体硬化症、ネフローゼ症候群、高血圧性腎化症および末期腎からなるそれらのある種の合併症の治療および／または予防のための請求項８記載の組成物の使用。

【請求項１０】糖尿病、糖尿病関連症状、ならびに腎疾患、糖尿病性ネフロパシー、糸球体腎炎、糸球体硬化症、ネフローゼ症候群、高血圧性腎化症および末期腎からなるそれらのある種の合併症の治療および／または予防のための医薬の製造のための請求項１ないし６のいずれか１項に記載の水和物の使用。

【誤訳訂正２】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】０００５
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【０００５】

本発明は、純粋な形態で、または他の物質と混合した場合の単離された塩酸塩水和物を包含する。

したがって、１の態様において、単離形態の塩酸塩水和物が提供される。

さらなる態様において、純粋な形態の塩酸塩水和物が提供される。

またさらなる態様において、結晶形態の塩酸塩水和物が提供される。

本発明は、また、溶媒としての酢酸中で５－［４－［２－（Ｎ－メチル－Ｎ－（２－ピリジル）アミノ）エトキシ］ベンジル］チアゾリジン－２，４－ジオン（化合物Ｉ）を水性塩酸で処理し、その後、所望の化合物を回収することを特徴とする塩酸塩水和物の製法を提供する。

適当には、水性塩酸は、濃塩酸と水または適当な有機溶媒、例えば、変性エタノールまたはプロパン－２－オールまたはその混合液を混合することによって形成される。

適当には、反応は周囲の温度で行われるが、所望の生産物を提供するいずれかの都合のよい温度を用いてもよい。

【誤訳訂正３】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００３２
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００３２】

実施例１：５－［４－２－Ｎ－メチル－Ｎ－（２－ピリジル）アミノ）エトキシ］ベンジル］チアゾリジン－２，４－ジオン，塩酸塩一水和物の調製：５－［４－２－Ｎ－メチル－Ｎ－（２－ピリジル）アミノ）エトキシ］ベンジル］チアゾリジン－２，４－ジオン（１０ｇ）の酢酸溶液（１００ｇ）に、濃塩酸（１０ｍｌ）を加えた。１５分後、清澄な溶液をジエチルエーテル処理（１５０ｍｌ）した。上澄液をデカンテーションし、残渣を新しいジエチルエーテル（１００ｍｌ）とともに攪拌した。この液を再びデカンテーションし、濁った（thick）オイルを新しいジエチルエーテル（５０ｍｌ）とともに攪拌した。生成物を濾過し、ジエチルエーテルで洗浄し、減圧下５０℃で乾燥させ、標題化合物（７．６７ｇ、６６．５％）、融点－再凝固で１００－３℃および再融解で１５０－４℃、を得た。